



にしだ小児クリニック併設

病児保育室 クオレ

## インフルエンザ A 型

## 流行のお知らせ



原因	<p>◆感染者の咳や鼻水、唾液などに含まれるインフルエンザウイルスを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手で、口や鼻、目などの粘膜に触れることで感染する接触感染です。</p> <p>◆インフルエンザにかかって、「せき」などの症状のある方は、特に、周りの方へうつさないために、マスクを着用しましょう。</p>
症状	<p>◆38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴。併せて普通の風邪と同じく、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。</p> <p>◆お子様ではまれに急性脳症を、御高齢の方や免疫力の低下している方では二次性の肺炎を伴う等、重症になることがあります。</p>
予防	<p>◆飛沫感染を避けるには、流行している時期、地域では、人込みに行かないことが予防の基本です。また、外出から帰宅した時、食事を準備する前など、何か作業をする時にも、こまめに手洗いをして接触感染のリスクを減らしましょう。</p> <p>◆空気が乾燥すると、のどや鼻の粘膜の防御機能が低下します。外出時にはマスクを着用、室内では加湿器などを使って適度な湿度(50～60%)を保つとよいでしょう。</p>
その他	<p>《乳幼児のインフルエンザワクチン接種》 報告により多少幅がありますが、概ね 20～60%の発病防止効果があると報告されています。また、乳幼児の重症化予防に関する有効性を示す報告もあります。</p> <p>《インフルエンザ脳症について》 インフルエンザ発病後、急に病状が悪くなる病気で、1歳をピークとして幼児期に見られます。(男女間の差はありません)。 その初期にはインフルエンザの症状に加え、早期の段階(多くは24-48時間以内)で、嘔吐、異常行動、意識障害、けいれんなどの症状が現れます。このような症状が見られた際には、速やかに医療機関を受診して下さい。 また、<u>強い解熱剤によって、インフルエンザ脳症がより重症化することがあるため、解熱剤の使用はかかりつけの医師に相談して用いましょう</u></p>